

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 30 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
1. 事業名：障がい者施設、特別支援学校を中心とした摂食・嚥下調査及び指導
2. 申請者名：一般社団法人 市川市歯科医師会 会長 石井 広志
3. 実施組織：一般社団法人 市川市歯科医師会
4. 事業の概要 現在でも障がい者施設等での窒息事故は起こっている。今までは肢体不自由者の施設では問題とされて来たが、知的な障害を持つ方にも同様の注意が必要であると思う。特に障がい者の高齢化が問題になっており、オーラルフレイルも注目を集めている。また昨年に行った調査では、障害を持つ子供の親御さんでも、自分の子供が安全に食事できているかどうか、分からない事が多いようである。そこで我々は幼児障がい者施設、特別支援学校、成人障がい者施設に対して、摂食・嚥下知識啓発のために5つの柱を計画した。
5. 事業の内容 ① 市内の特別支援学校、障がい者施設へのアンケート調査 ② 知識啓発のための市民、団体関係者への講習会 ③ 歯科医師会会員への講習会 ④ 現場での摂食嚥下指導 ⑤ 地域の団体、市職員との連絡協議会
6. 実施後の評価（今後の課題） ①知的障がい者のご家族を対象とした。ほとんどが食事の事で気になる事があるとの結果であった。ご家族がほとんど咀嚼をしていない事、唇が閉じていないことには気がついてはいるが、食べられているためあまり重要視していないケースが多かった。 ②今年度も多くの講習会を開催した。他職種連携をはかる目的で、医療関係者、障がい者施設関係者に多くご参加いただいたが、大変に好評で年間で数回、開催した例もあった。 ③今年度は症例検討会を3回開催した。会員にも大変好評であり、わかりやすかったとの評価を得た。実際に我々が摂食に問題がある方と食事を共にする機会は少なく、症例として動画を見ていただく事で理解を得られたと感じている。特に3回通して同じ方の報告をしたケースでは良くなっているとの評価も得られた。またオーラルフレイルなどにも注目して講習会を開催し、口腔機能低下症や口腔機能発達不全症の算定基準についても講習会を開催し好評であった。両項目が今後、摂食嚥下指導の場においても1つの基準になるのではないかと考えた。 ④今年度は成人施設2つと特別支援学校1校に指導を行った。実際の現場では食事の介助をしている人は疑問を持っている人も多く、指導してほしいと感じている人が多い事がわかった。実際に回数を行えば行っただけ結果もでて、現場でも好評であった。しかしながら実際に施設や学校で立ち会えるのは昼食の時間であり、その時間に合わせて施設へ行かれる人間は数が限られているし、多くの人間が施設へ見学に行く事も出来ない。今年度はそれを症例検討会の形で解消したが、実際に現場で見る事も大切であると感じた。 ⑥ 市川市内には多くの方が障がい者に関わりを持っている。昨年度からはじめたこの連絡協議会で、行政の関係者、障がい者施設の関係者と連携が取れたことは大きな成果であったと思う。また、今年度は言語聴覚士の方にご講演いただき、大きな評価を得た。